たり、妖は夫の義、字書の本義にあらず、猶いろせの條考べし、

〔物類稱呼人倫〕夫をつと　薩摩にてとの丈といふ（夫男夫子せなこなどゝ歌書にをゝく出）

〔屠龍工隨筆〕こていといふは、御亭主をいふ事なるべし、賤宿の詞には、夫をもごていごて樣などと云なり、牛童を牛番こてと、木曾の云し事、平家もの語に見えたり、

前夫

〔倭名類聚抄夫妻〕前夫　顏氏云、前夫、和名之太乎、一云、毛止乎止古、

〔箋注倭名類聚抄夫妻〕令俗謂舊來有之爲之太治有之、之太乎之之太、蓋是也、毛止乃乎止古、見後撰集金葉集、

後夫

〔倭名類聚抄夫妻〕後夫　顏氏家訓云、後夫多寵前夫之子、和名波乎、一云伊萬乃乎、宇止、

〔箋注倭名類聚抄夫妻〕所引後娶篇文、原書子作孤、此所引恐誤、按宇波對之太之稱、與宇波奈利之宇波同、

妻

〔倭名類聚抄夫妻〕妻　白虎通云、妻西反、和名米、者齊也、與夫齊體也、又用夫妻婦妻一云波須、米阿

〔箋注倭名類聚抄夫妻〕按妻訓米阿波須、天智紀同、蓋妻配之義、○中略所引嫁娶條文、說文、妻婦與夫齊者也、與此義同、釋名、天子之妃曰后、諸侯之妃曰夫人、卿之妃曰內子、大夫之妃曰命婦、士庶人曰妻、妻齊也、夫賤不足以尊稱、故齊等言也、

〔伊呂波字類抄人倫〕妻メ

〔古事談王道后宮〕治曆比取人妻メニシタリケル者アリケリ、春宮三條後御卽位アリケレバ、此御時ハ罪科ニモソ被行トテ、返遣本人許了云々、

〔伊呂波字類抄都人倫〕妻ツマ

〔日本釋名中人品〕妻ツマ　万葉仙覺抄につはつゞく也、まはまとはる也、詞林采葉抄曰、つはつゞく、まはまとはる也、夫婦枕をならべて、まとはりぬると云詞也、篤信曰、右兩說いぶかし、只むつまじの上